



うちの「宇宙の学校」



KU-MAへの関わりと 知立市「宇宙の学校」

知立市「宇宙の学校」事務局
蛭川公一

民間企業の技術系にて30余年。定年近くの2006年初、宇宙航空研究開発機構(JAXA)のプロジェクトに千載一遇のチャンスを得て参加することができました。同じ技術分野といえども全てが新鮮で初めての経験であり、その2年間があっという間に過ぎました。プロジェクトの使命を達成して、2008年4月出身企業に戻る頃は定年後の生活を思い描く時期でもありました。

ちょうどその頃、的川先生ご提唱の「子ども・宇宙・未来の会(KU-MA)」が創立され、「宇宙の学校」が全国に向けて展開を始めている時でもありました。私の心のなかでは「宇宙の学校」の魅力・興味から、退職後のボランティア活動として関わってみたい思いと同時に、開校に向けたハードルの高さや具体的な活動が思い描けないという大きな不安もありました。

その一歩を踏み出すことができたのは、①宇宙の分野とのつながりが少なからずできたこと。

②このプロジェクトメンバー十数名のうち3名が同じ愛知県出身で、その一人はKU-MA初代監事の佐橋さんであり、全国に先駆けて小牧市に「宇宙の学校」を開校された中心人物でもあります。もう一人は知立市「宇宙の学校」で事務局を一緒にやっている棚橋さんです。近くに相談できる諸先輩に恵まれていたこと。などです。

そして、「宇宙の学校」開校に向けた地元への働きかけは常にこの3名で行動し、心強い支えとなりました。開校に向けた活動は、「KU-MAの理念と活動」を地元の知立市で具体化するための「思い」を巡らせることからスタートしました。それを「構想書」にまとめ、市の「子ども向教育団体」や「ボランティア団体」「教育委員会」などへの説明を経て、的川先生と教育長との面談が実現し、知立市「宇宙の学校」の開校準備に入ることができました。

体制づくりにおいては、教育長と会場となる小学校の校長(「宇宙の学校」校長)先生が、市の教育関係者・組織などを取りまとめていただきました。前記の3名は設立準備事務局として、全体まとめと企業への呼びかけなどを行いました。

その結果、スタッフとして理科教育研究会の先生・PTA関係者・議員・企業技術者などの多分野のメンバーが集まり、まさに産学官連携が実現した体制となりました。

この連携により、「子どもたちの意識の理解×モノづくり技術」などの融合が生まれ、講師による手作り教材やスクーリングの進め方の工夫などの成果が現れています。

また、スタッフの熱意・努力により実現した「山のロッジでバーベキュー・宿泊を伴う天体観測」や閉校式での「1年間の反省会を兼ねたお楽しみ会」などは特徴ある活動とされています。更に、スタッフの自発的活動により、フェイスブック・ホームページ・スライドショーなどで活動情報の発信も活発に行っております。

構想を始めて1年半後の2012年11月にプレ開校し、本年度で3年目。子どもたちの元気な笑顔や感動溢れる姿を目にすることで、ボランティアで活動しているスタッフの活力が更に向上し、充実した運営につながると考えます。このような良循環が今後とも継続して回っていくように事務局として努力していきたいと思っております。



▲特別スクーリング(宿泊)

▲最後のスクーリング(閉校式)の日はみんなでお楽しみ会!

KU-MA と わたしたち

★☆☆みなさまからお寄せいただいたメッセージ(抜粋)を紹介いたします★☆☆

×ルマガの「宇宙茫茫ヘッドライン」はとても重宝しております。「Hiraxコラム」も、もっと頻繁に更新されるようになるといいなと思います。」

「宇宙の現場で働く方の講演会など、大人向けの宇宙の学校もぜひ開催してほしい。宇宙の「ホンモノ」と出会うとき、好奇心や冒険心をそそられます。」

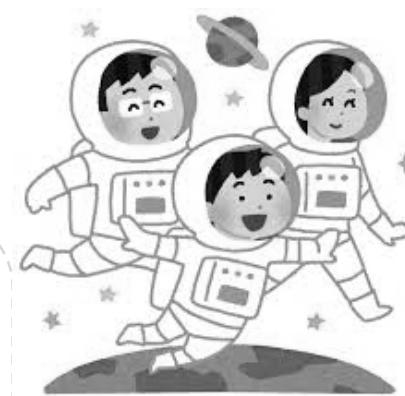
「KU-MA」の活動や現場の方たちのことが写真入りで紹介される「KU-MA ニュース」を読んで、KU-MAに親しみを感じるようになりました。(東京都 安藤)

私は子どもの頃から夜空を見るのが好きでした。原子力の道に進みましたが、宇宙への夢は捨てません。現在、青森県六ヶ所村に単身赴任していますが、そこで見たスーパームーンはとても大きく鮮明で感動しました。
宇宙のイベントは本当にワクワクします。KU-MAには、子どもから大人まで一緒に宇宙や科学を楽しめるコーナーをたくさん開催して頂きたいと思います。期待しています。(青森県 石口)

KU-MAの素敵なところは、宇宙への憧れを行動にできる活動とずっと宇宙が好きでいる大人に出会ってもらえること!
(東京都 小菅)

「全国に『宇宙の学校』が広まったところで、たまに『宇宙の学校-大人編』があってもいいかも?と思います。」

「会員の方々が情報交換できる掲示板のようなものがHP上にあるといいですね。」
(東京都 菊地)



宇宙の学校が開校されない地域の子のために、講演会、工作指導の部分だけでいいから動画を公開して欲しい。事務局がこれ以上疲弊しませんように(短冊)
中学校に上がる子どものお母さんから、来年から寂しくなるねと聞いた。体制を整える事ができれば、中学生以上の科学好きの受け皿も作って欲しい。
他のウェブサイトだが、科学知識の疑問を投稿し、それに講師が答えるサイトがある。KU-MAさんでやっても面白いが、問題は費用だろうなあ。教材に使用している品のメーカーの広告で何かならないか?
(神奈川県 小野瀬)

2015年初夢

- 子どもA: ぼくは兄さんと今年の春休みに無重力体験の宇宙旅行へ行くんだ!
- 子どもB: わたしは夏休みだけ家族で1週間宇宙ホテルへ行くの。
- 子どもC: いいなアー。でも、人が乗るロケットや宇宙船がみんな外国製だけど日本製はないの?

子どもD: お父さんに聞いたけど、30年ほど前の計画で日本は人が乗れるロケットや宇宙船の開発をやらなかったからだってさ。

こんな日本の子供たちの会話でドキッとして目を覚ましました。将来この初夢が正夢にならないように、KU-MA活動にも子供たちが未来に宇宙の仕事が出来る基盤をつくることにつながるような内容もあっていいと思いますが、いかがでしょう。

(東京都 斎藤)



親も楽しい、子も楽しい。機関誌が届くたび、そんな風景を見ながら楽しんでます。協力できて嬉しいわ。
親子で楽しんでるのがとっても素晴らしい。親子の関わりは重要だけど、一緒に楽しめる時間は短いから。
いい活動は、もっとひろがってほしいなあ。
大津市でもやってくれたらいいなあ。
近くで開催されれば手伝いに行きたい。
(滋賀県 小野瀬)

「学びは「真似る」」
大人が愉しく活動すれば子供はついてくる。
シンプルなお教材こそ深い。
自分が詳しくなるほど教え込まずに愉しさを与えられる。
理系じゃないから不安というつつ、一番楽しんでた。
それはKU-MAの素敵な仲間がいたから。
(東京都 廣野)